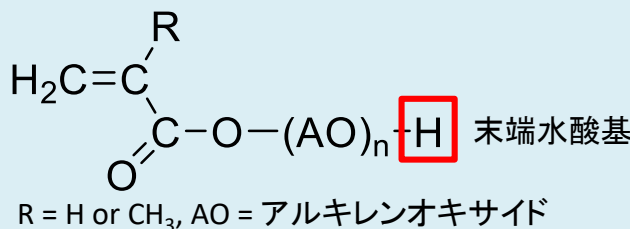


末端水酸基PAGモノ(メタ)アクリレート ブレンマー® AP-D、PP-D(開発品)

特徴

- ◆ 従来品と比べ、重合時に不要なゲル化が生じにくく、ポリマーの粘度を低減できます。
- ◆ 末端に水酸基を有するため、イソシアネートやエポキシ基と容易に反応します。
- ◆ 従来品にはなかった高分子量番手をラインアップしております。
- ◆ 他モノマーと共重合させることでPAG鎖を導入することができます。

ラインアップ



製品名	構造			性状	
	R	AO	n	外観	動粘度 (mm ² /s, 40℃)
ブレンマー® AP-400D	H	PO	6	無色～ 淡黄色液体	24
ブレンマー® AP-1000D			17		79
ブレンマー® PP-500D	CH ₃		9		26
ブレンマー® PP-1000D			19		65
ブレンマー® PP-2000D			34		165

※ご要望に応じてカスタマイズ対応いたします。

ゲル化抑制効果

従来品と開発品を使用して、以下の条件にてホモポリマーの合成を行いました。開発品は右図のように不要なゲル化物の発生を抑制することが可能です。

温度	70℃
重合時間	3 hours
組成	モノマー/トルエン = 50/50 wt%
開始剤	アゾビスジメチルバレロニトリル

従来品

開発品



ホモポリマーの外観

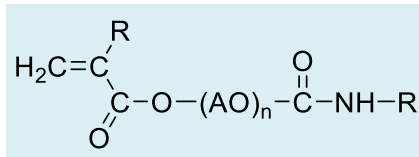
従来品 → ゲル化

開発品 → 液体

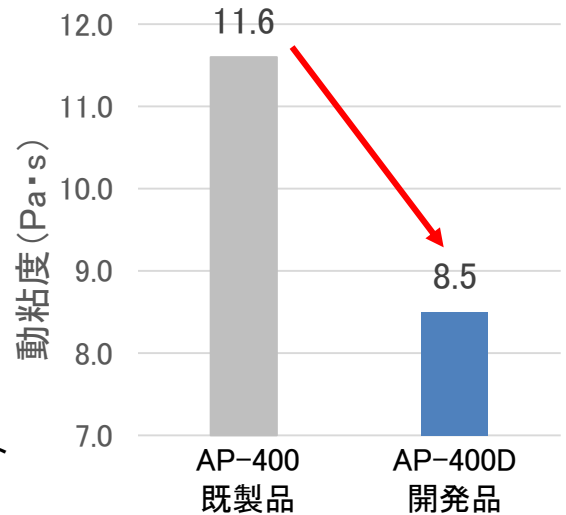
粘度低減効果

末端の水酸基を利用してウレタン化反応を行い、粘度を比較しました。重合性基およびPAG鎖の導入とともに、粘度の低い誘導体を得ることができます。

温度	60℃
反応時間	4時間



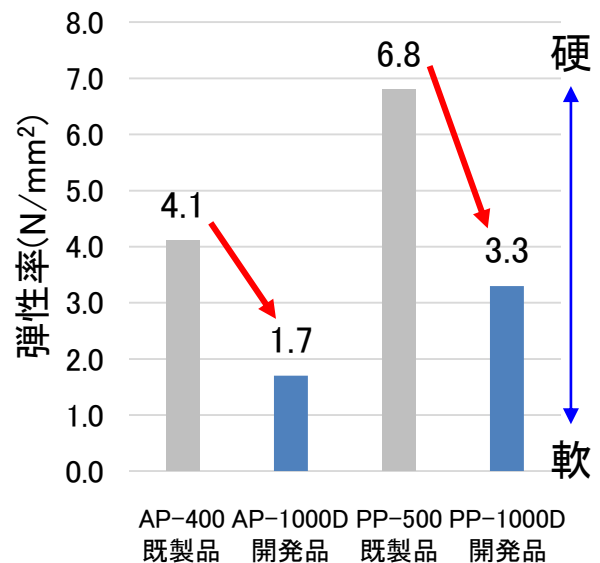
PAG鎖を有するウレタンアクリレート



樹脂改質効果

下記条件にて光硬化物を作製し、引張試験を行いました。高分子量のモノマーを使用することにより弾性率が低下し、**高い樹脂改質効果を発揮できる**ことを確認しました。

条件	500～600mJ/cm ²
組成	市販UV硬化型ウレタンアクリレート(UA) UA/BLEMMER [®] AP-1000D=1/3 UA/BLEMMER [®] PP-1000D=1/1
開始剤	ジメトキシフェニルアセトフェノン



用途例

- ◆ 光硬化性樹脂
- ◆ 粘接着剤

ここに記載された事項は現時点で入手できた資料、情報、データに基づく情報提供を目的としたもので、記載内容を保証するものではありません。

ブレナーは日油株式会社の登録商標です。